

ヒースロー空港、ガトウィック空港そしてスタンステッド空港における夜間飛行制限について、運輸大臣(閣外大臣)による声明文

英国運輸省

声明の日付: 2013年1月22日

公表の日付: 2013年1月22日

方針:英国の空港やエアラインが、環境やコミュニティへの悪影響を減らしながら、安全で確実なまま、競争力を保てるよう確認するため。

大臣(Minister): Simon Burns

2回の夜間騒音諮問のうちの1回目が今日公表された。

2012年3月26日に政府は、ヒースロー空港、ガトウィック空港そしてスタンステッド空港の夜間飛行に関する現在の制限を2014年10月まで2年間延長する予定を発表した。この期間延長によって、政府が春までに構築すると約束した航空政策の枠組みが新規夜間飛行政策に確実に取り入れられるだろう。

本日、私は2回の諮問のうちの1回目を公表したが、この2回の諮問は次期夜間騒音体制の展開について情報をもたらすことになるだろう。今回の第1回諮問は、現在の体制の有効性、将来の選択肢の費用と効果、エアラインの保有機の更新計画を含めた一通りの問題について展望を探り、証拠を求めるものである。加えて、今回の諮問には夜間飛行の代償、特に騒音と、これら夜間飛行の利益に関する現在の証拠に関するレビューが含まれる。次期夜間飛行体制の政策の選択肢の評価がどのように可能か、我々の考え方を披露し、我々の取り組み方に関する展望を求めるものである。

我々は年内に第2回目の諮問を公表する予定だが、夜間飛行が何便なら容認できるのかというような、特定の提案がこの諮問には含まれるだろう。今回の第1回目の諮問で得た証拠によって情報が得られる予定のこれらの提案では、騒音障害によって影響を受ける人々の利益と、空港や旅客や英国経済の利益の間の公平なバランスを取る必要があるだろう。